

色名使用の実態と被服着用嗜好色に関する研究
— 日本とメキシコの女子短大生の比較を通して —

Actual Situation in the Use of Color Names
and the Color Preference for Clothes Color Choice
— Comparison between Japanese and Mexican female college students —

坂上ちえ子・瀬戸房子*

Chieko SAKAGAMI・Fusako SETO

(Received October 1st, 2001)

In this paper, the survey on female college students who are sensitive to fashion was conducted with regard to the recognition and image of the colors, color preference, color preferred for wearing on the basic colors and the common colors.

The results are as follows :

(1) The color names that Japanese subjects used coincided between the subjects and the almost of all color names were classified into the basic color name, however the color names that Mexican subjects used were various.

(2) The colors that more than 80 % of Japanese subjects answered were the names as prescribed by JIS and these were red, yellow, green yellow, green, blue, white, and black.

(3) Although most of all Japanese subjects were reminded of something concrete with all colors, Mexican subjects were reminded of something abstract with some colors.

(4) Although the correlation coefficient between the preferred colors and the color preferred for clothing was low score in Japanese subjects, it was high score in Mexican subjects. Black color was preferred for formal clothing by both Japanese and Mexican subjects.

1. 緒言

現在、私たちの身のまわりには多彩な色の服が溢れ、個人の嗜好に応じて自由に様々な色を選択できるようになった。とりわけここ数年の特徴として、衣服選択や購入の際に素材とデザイン・柄

* 鹿児島大学教育学部

をごくシンプルにし、トップとボトム、インナーとアウターの色のコンビネーションをより重視する傾向がみられる。このように色彩は私たちの衣生活に欠くことのできないものであるが、色彩についての情報は生得的に人間に備わっているものではない。生まれてから徐々に色覚が整い、生理的に色を感受できるようになるといわれている。そして、人間の発達段階とともに色への興味付けが行われ、色表現を覚え、色に関する知識を習得していく。さらに、個々人は色に対する嗜好をもとに色彩感覚や教養を構築し、それらを社会的な記号情報として共有しながら社会生活を営むとされている¹⁾。しかし、全ての色についてその概念が一般化されているとはいえない。色彩概念の1つに色名があるが、日本とインドネシアの学生を対象に調査した結果、使用する色名が対象者間で一致していた色は少なかった(坂上と文田, 1993)²⁾。また、通産省工業技術院によって1957年にJIS「色名」が制定され、色と色名が規則化された(呂, 1996)³⁾にも関わらず、婦人衣料商品通信販売カタログには200以上の色名が出現し、調査対象者が色名から具体的な色を認識できなかった結果が明らかにされている(盛田, 1996)⁴⁾。また、同じく色彩概念の1つである色彩の嗜好性についても、色彩感覚のベースであり個人がそれぞれに感じることでとされてきた。日本とアメリカの比較(芳村等, 1988)⁵⁾、韓国と日本の比較(齋藤, 1992)⁶⁾、中国と日本の比較(方, 1992)⁷⁾と調査研究が進み、色自体に対する嗜好色形成のプロセスや民族・文化間の相違は明らかにされつつあるが、衣服選択と色彩嗜好性との直接的な関係についての研究は緒についたばかりである(押山と家本, 1997)⁸⁾。個人の感性とともに社会環境や文化からも大きな影響を受け、被服着用や選択行動要因となる色彩の嗜好性が明らかにされれば、衣服によってより個性の表現ができるようになると考えられる。

そこで本研究ではこれまでの研究結果をふまえ、社会習慣の異なる日本とメキシコのファッションに敏感な世代を対象として、色彩概念の1つである色名使用の実態とその共有性を明らかにする。また、個人の色嗜好と用途を限定した場合の着用衣服の嗜好色との関係を数値により明確にする。さらに、色嗜好に影響を及ぼすと考えられるカラーイメージについても検討を行う。

2. 方法

(1) 調査方法

調査は刺激となる21色のカラーカードを添付した台紙に質問項目を記載した質問紙を用い、留め置き自記式による質問紙調査法で行った。調査対象地域は地域概況が比較的近似している日本の鹿兒島市とメキシコのセラヤ市とした。対象者はいずれも女子短期大学に通う18~20才の女子学生各14名で、衣服やその色彩に関心が高いことを考慮して対象者の年齢と性別を選択した。調査時期はいずれも2000年6月であった。色彩に関する調査に必要な照明などの条件は、JIS Z 8723-1988「表面色の視感比較方法」に準じた。

調査項目は呈示された21色の色刺激に対して、①普段使用している色名、②連想されるイメージ、③用途を限定しない場合の好きな色、④普段に着用する服として好きな色、⑤フォーマルな場で着用する服として好きな色の5項目で、一般的な色彩概念と色の嗜好に関する調査内容とした。

(2) 調査に用いた色刺激

調査に用いた色刺激の詳細は表1の通りである。JIS Z 8102-1985「物体色の色名」において、有彩色の基本色10色（グループA）と無彩色の基本色3色（グループB）が規定されている。これら13色と生活のなかで目にする頻度の高い中間色8色（グループC）を加えた21色を調査に用いる刺激として選定した。刺激の大きさは全て1.2cm×1.5cmで、色の対比現象を避けるために色空間を考慮したうえで各色を質問紙に配置した。21色を表現するカラーカードは日本色研事業（株）製「トータルカラー」を用いた。

(3) 色に対する嗜好の数値化

色の嗜好に関する調査は、2.(1) 調査方法のなかの調査項目③から⑤で示した通り3つの状況を設定し、各状況において好む順に1位から5位までを21色の呈示色刺激の中からそれぞれ選ぶ内容とした。1位から5位までに選ばれた色刺激には、1位に5点、以下2位から5位にそれぞれ4点から1点を与えて、次式により各質問項目における21色に対する嗜好の数値化を試みた。

$$X_i = \sum_{n=1}^{14} C_{in} \dots\dots\dots (1)$$

X_i : i 番目の色の点数 ($i=1\sim 21$)

C_{in} : i 番目の色に対する n 人目の点数

3. 結果と考察

(1) 使用色名

1) 色名の使用実態

色名はその色がどのような色であることを伝える言葉である。一般に多くの色はマンセル色表系の10色相（「red」「yellow」「green」「blue」「purple」「yellow red」「green yellow」「blue green」「purple blue」「red purple」）と無彩色3段階（「white」「gray」「black」）を直訳した基本的な色名、加えて「暗い」「赤みの」といった修飾語によって表現できるとされている。さらに、色の持つ微妙なニュアンスを伝えるために着色材料や身の回りにある物質などの名称を用いた固有色名も使

表1 調査に用いた色刺激の色名とJIS値

番号	色刺激	JIS値	グループ名
1	赤紫	10P5/14	A
2	赤	2.5R5/14	A
3	ピンク	7.5R7/8	C
4	黄赤	7.5R5.5/14	A
5	だいだい	5YR7/14	C
6	茶色	7.5YR3/4	C
7	薄茶	2.5Y7.5/14	C
8	黄	5Y8.5/14	A
9	クリーム	5Y9/4	C
10	オリーブ	7.5YG3/4	C
11	黄緑	5GY7/10	A
12	緑	5G5/10	A
13	浅緑	2.5G8/6	C
14	青緑	2.5BG5/10	A
15	青	5PB4/10	A
16	空色	10B6.5/6	C
17	紫	7.5P4.5/10	A
18	青紫	10PB4.5/10	A
19	灰色	N6.0	B
20	白	N9.5	B
21	黒	N2.0	B

グループA: 有彩色基本色
 B: 無彩色基本色
 C: 中間色

表2 色名の使用実態

色刺激 (グループ)	日本		メキシコ		色刺激 (グループ)	日本		メキシコ			
	色名	回答数	色名	(色名訳) 回答数		色名	回答数	色名	(色名訳) 回答数		
赤紫 (A)	赤紫	8	fiusha	不明	6	灰色	灰色	gris	灰色	14	
	えんじ色	3	rosa mexicano	rosa:バラ	5	(B)	グレー				
	明るい赤紫	1	rosa intenso	intenso:強い	1	白	白	blanco	白	13	
	ワイン色	1	magenta	深紅色	1	(B)		white	白	1	
	ホットピンク	1				黒	黒	negro	黒	13	
赤 (A)	赤	13	rojo	赤	10	(B)		black	黒	1	
	オレンジがかった ピンク	1	red	赤	1	ピンク	サーモンピンク	rosa	バラ	4	
			rojo bermellon	bermellon:朱砂	1	(C)	肌色	mamey	オキリツウ科の大木	3	
			coral	サンゴ	1	ピンク	3	salmon	鮭	2	
			carmin	洋紅色	1	桃色	2	melon	スイカ	2	
黄赤 (A)	オレンジ	5	naranja(do)	オレンジ(色の)	9	シエルピンク	1	duiazno	甘い	1	
	朱色	4	terracota	赤土の素焼き	1			pink	ピンク	1	
	濃いオレンジ	3	naranja fuerte	fuerte:強い	1			carne	肉	1	
	だいたい	2	naranja subido	subido:強烈な	1	だいたい	オレンジ	7	nananjado	オレンジ色の	4
			naranja oscuro	oscuro:暗い	1	(C)	みかん色	2	naranja claro	claro:明るい	4
黄 (A)	黄色	12	amarillo	黄色	10	やまぶき色	2	naranja	オレンジ	2	
	レモン色	2	amarillo canario	canario:カナリア	2	だいたい	1	naranja intenso	intenso:強い	1	
			amarillo pollo	pollo:ひなどり	1	黄色つばい	1	amarillo naranja	amarillo:黄	1	
			mostaza	カラシ	1	オレンジ'		amarillo fuerte	fuerte:強い	1	
						うすいオレンジ	1	orange	オレンジ色の	1	
黄緑 (A)	黄緑	14	verde limon	limon:レモン	6	茶色	茶色	8	café	コーヒー	9
			verde pasto	pasto:牧草	2	(C)	こげ茶	6	café oscuro	oscuro:暗い	3
			verde claro	claro:明るい	2				brown	茶色の	1
			verde fluorescente	fluorescente:蛍光	2				sepia	セピア	1
			verde brillante	brillante:輝く	1	薄茶	ベージュ	8	cofe claro	claro:明るい	6
			verde	緑	1	(C)	おうど色	6	caqui	①柿②カーキ色	2
									cofe con leche	コーヒー牛乳	1
緑 (A)	緑	13	verde	緑	7				siena	コウイカ, セピア	1
			verde pasto	pasto:牧草	2				crema	クリーム	1
			verde limon	limon:レモン	1				veige	ベージュ色	1
			verde medio	medio:半分の	1				paja	麦わら, ストロー	1
			verde bardero	bardero:理髪師	1				chocolate	チョコレート	1
	青緑 (A)	5	verde	緑	8	クリーム	クリーム色	10	crema	クリーム	6
			verde bandera	bandera:旗	2	(C)	うす黄色	2	beige	ベージュ	3
			verde azul	azul:青い	1		黄色	1	amarillo huevo	huevo:卵	1
		verde ultramar	ultrama:群青色	1		ホワイト	1	amarillo claro	claro:明るい	1	
青 (A)	青	14	azul marino	marino:海	4	深緑	6	verde militar	militar:軍隊の	8	
			azul	青	3	(C)	カーキ	6	verde seco	seco:枯れた	3
			azul rey	rey:王	3		モスグリーン	1	verde olive	olive:オリーブ	1
			azul fuerte	fuerte:強い	2		抹茶色	1	verde oscuro	oscuro:暗い	1
			azul cobalto	cobalto:コバルト	1				caki	カーキ	1
			azul oscuro	oscuro:暗い	1	浅緑	うすみどり	5	vede claro	claro:明るい	4
						(C)	エメラルドグリーン	5	verde agua	agua:水	2
紫 (A)	紫	9	violeta	紫色の, スミレ	3		わかづき色	1	verde pistacho	pistacho:ピスタチオ	2
	明るい紫	1	morado	暗紫色の	3		モスグリーン	1	verde pastel	pastel:パステル	1
	パープル	1	purpura	赤紫色の	3		クリームがかった 緑	1	verde	緑	1
	赤紫	1	lila	薄紫色の, ライラック	2		うすいエメラルド	1	pistacho	ピスタチオ	1
	薄めの紫	1	morado claro	claro:明るい	1				agua	水	1
青紫 (A)	紫	7	morado	暗紫色の	13	空色	水色	11	azul cielo	cielo:空	9
	青紫	7	morado azul	azul:青	1	(C)	ブルーグレー	1	azul	青	2
						群青色	1	azul celeste	celeste:空の	1	
						濁った水色	1	azul claro	claro:明るい	1	
								celeste	空の	1	

グループA:有彩色基本色
B:無彩色基本色
C:中間色

用される。グループAに分類した色刺激は表1に示したように色相環の代表色相で彩度が高いため色の表現が容易であろうと予想した。提示された21色の色刺激に対して普段使用している色名の回答結果を表2に示す。グループAの色刺激については、日本では「青緑」で「こい緑」「くらい緑」などの修飾語を用いた色名が使われ、また、「黄赤」で「オレンジ」「朱色」などの固有色名が使われたほか、8色でマンセル色表系の代表色相を直訳した基本的な色名が主に使用されていた。メキシコでは「赤」「黄」「青緑」「紫」「青紫」の5色で基本的な色名が使われていた。残りの5色のうち「赤紫」「青」は固有色名が多く使用されていた。「黄赤」「黄緑」は固有色名と修飾語の付いた固有色名が、また、「緑」は基本的な色名と固有色名が多く使用されていた。グループBの3色については日本もメキシコもマンセル色表系の無彩色3段階を直訳した基本的な色名が使用されていた。グループCに関しては、日本では「浅緑」で「うす(い)緑」などの修飾語を使った色名が半数を占めたほかは、7色で固有色名が使われていた。メキシコでも固有色名が多く使われたが、「だいたい」「薄茶」「浅緑」の高明度の色で「明るい」という形容詞を使用した色名が多いという特徴がみられた。

2) 使用色名の一致性

対象者の半数以上が同一色名を使用している色についてそのパーセントを、5種類以上の色名が使われていた色にその種類の数を表3に示す。呈示刺激21色全体を比較すると、1つの色名に半数以上の回答が集中したのは、日本では15色であったのに対し、メキシコでは12色であった。また、1つの色に5つ以上の色名が使われていたのは、日本では6色であったのに対し、メキシコでは14色であった。表2によりその内容の詳細を検討した。「赤」「黄」「黄緑」「緑」「青」の5色は日本の対象者で1つの色名に回答が集中しており一致性が高かった。それに対し、メキシコでは「青紫」「灰色」「白」「黒」を除くすべての色で4種類以上の色名が用いられ日本のような一致性はみられなかった。「白」「黒」は日本、メキシコいずれの対象者もほぼ全員が1つの色名を回答しており、高い一致性が見られた。「茶色」「薄茶」は日本の対象者間で2つの色名に回答が分かれたのに対し、メキシコではそのような特徴はみられず多彩な表現が使われていた。「青紫」「灰色」は日本の対象者間では

表3 使用色名の一致性

グループ	色刺激	同一回答50%以上(%)		回答色名5種以上(数)	
		日本	メキシコ	日本	メキシコ
A	赤紫	57.1		5	
	赤	92.9	71.4		5
	黄赤		69.2		5
	黄	85.7	71.4		
	黄緑	100			6
	緑	100	58.3		5
	青緑		61.5	8	5
	青	100			6
	青紫	64.3		6	5
B	灰色	64.3	100		
	白	100	92.9		
	黒	100	92.9		
C	ピンク			5	7
	だいたい	50.0		6	7
	茶色	57.1	64.3		
	薄茶	57.1			8
	クリーム	71.4			6
	オリーブ		57.1		5
	浅緑			6	7
空色	78.6	64.3		5	

グループA: 有彩色基本色
 B: 無彩色基本色
 C: 中間色

「茶色」「薄茶」と同様に半数ずつの対象者によって2つの色名が使われていたが、メキシコの対象者間では「白」「黒」を除いた中で最も色名使用に高い一致性が見られる色であった。「ピンク」「浅緑」の2色は日本、メキシコいずれにおいても同一色名に半数以上の回答がなく、5種類以上の色名が使用されており一致性が低かった。この2色は明度と彩度が近く、この段階の明度と彩度を持つ色は印象が薄いためそれがこの結果の理由の1つと考えられる。以上の結果より、メキシコの対象者の方が1つの色に対する表現が豊かであったが、色名は色を伝える手段であることから、対象者間で多くの色名が使用されると伝達機能が混乱する可能性も考えられる。

3) JIS 規定による色名と使用色名の一致性

基本色として呈示したグループAとBの13色はJISによって基本色名が規定されている。JISに規定された色名が日本の対象者によって実際に使用されていた頻度を図1に示す。「赤」「黄」「黄

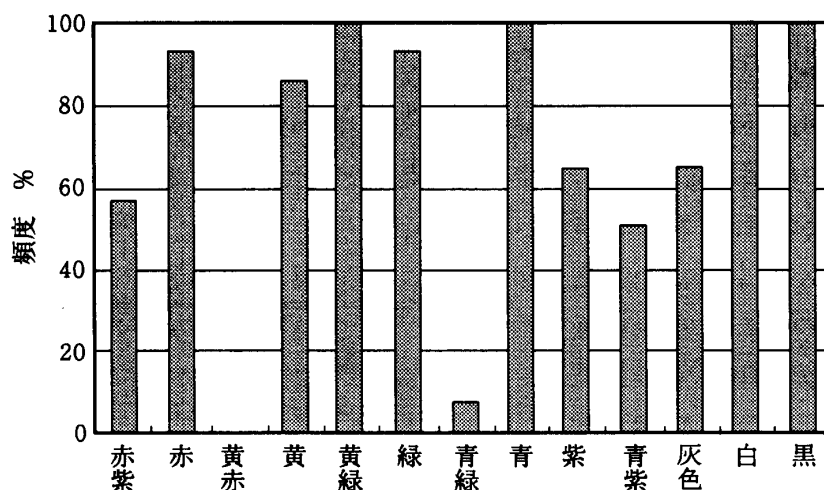


図1 JIS規格による色名と使用色名の一致性

緑」「緑」「青」「白」「黒」については対象者の80%以上が正解していた。とくに「赤」「黄緑」「青」「緑」「白」「黒」は対象者の90%以上が正解とする色名を回答していたので、これらの色についてはJISに規定する基本色名が共通概念として認識されていることを明らかにした。「赤紫」「紫」「青紫」「灰色」は使用頻度が50から60%であった。「紫」「青紫」については表2において詳細な回答結果を示した通り、対象者の半数近くが「紫」より青みがかった「青紫」の方を「紫」と誤って認識していることによるものと考えられる。「赤紫」と「灰色」は色の弁別に誤りはないが色名の表現方法にばらつきがみられた。とくに「灰色」を「グレー」と回答するものが半数を占め、「グレー」への馴化が明らかになった。ところがこれらに対し、「黄赤」「青緑」という色名を使用している者はほとんどいなかった。JIS Z 8102-1985に規定された基本色名は修正マンセル色相環の基本色10色を直訳し、「Yellow Red」を「黄赤」、「Blue Green」を「青緑」としたと考えられるが、言葉自体になじみが薄く対象者間での認知度が低い。これら2色については正しい色情報伝達のためのより適切な色名が必要であるのではないかと考える。

(2) イメージに関する日本とメキシコの比較

1) 色刺激から連想されるイメージ

呈示された色刺激を視感した後、自由記述された連想イメージのなかで回答が複数以上あった語についてまとめた結果を表4に示す。同一回答がなかった色は、メキシコでは「赤紫」「クリーム」「青緑」「紫」の4色であったが、日本ではすべて複数回答された。また、5人以上の回答を得たイメージ語について見ると、日本の対象者においては「鮭」のイメージとして「鮭」と回答す

表4 回答数2以上のイメージ語

色刺激	日本		メキシコ		色刺激	日本		メキシコ	
	イメージ語	回答数	イメージ語	回答数		イメージ語	回答数	イメージ語	回答数
赤紫 (A)	ワイン	3			緑 (A)	木	4	牧草(pasto)	3
	口紅	2				森	2	旗(bandera)	3
赤 (A)	リンゴ	3	愛情(amor)	5				木(arbol)	2
	情熱	3	情熱がある	2				自然	2
	火事	2	(haber pasion)					(naturaleza)	
ピンク (C)	鮭	5	優しさ(ternura)	2	浅緑 (C)	宝石	2	風呂(bano)	3
	皮膚	4	子ども(nina)	2		メロン	2		
黄赤 (A)	オレンジ	2	女性(mujer)	2	青緑 (A)	葉っぱ	2		
	明るさ	2	オレンジ'(naranja)	2		森林	2		
だいたい (C)	みかん	6			青 (A)	空	7	海(mar)	4
	オレンジ	2	食べ物(comida)	3		海	5		
茶 (C)	チョコレート	5	オレンジ'(naranja)	2	空色 (C)	空	5	空(cielo)	6
	土	3	チョコレート	3		涼しさ	2	静かさ	3
	壁	2	(chocolate)					(tranquilidad)	
薄茶 (C)	土	2	木の幹(tronco)	3	紫 (A)	ぶどう	2	平和(paz)	2
	服	2	乾いた葉	2		スマレ	2		
			(hoja seca)			青紫 (A)	朝顔	3	聖なる週
黄 (A)	レモン	6	ミルク入りコーヒー	2	灰色 (B)	火山灰	4	(semana santo)	
	バナナ	2	(cofe com leche)			ネズミ	2	羽毛(pluma)	2
クリーム (C)	アイスクリーム	3	着ているズボン	2	白 (B)	雲	3	悲しみ(tristeza)	2
	柔かい	2	(pantalon de vesir)			ブラウス	2	ドレス(vestido)	2
オリーブ (C)	お茶	4	喜び(alegria)	2	黒 (B)	夜	4	優雅な	2
	苔	2	軍隊の制服	2		喪服	2	(elegance)	
黄緑 (A)	草	5	軍人(soldado)	2		闇	2	純粹(pureza)	7
	葉っぱ	3	自然(naturaleza)	2		葬式	2	優雅(elegancia)	6

グループA: 有彩色基本色

B: 無彩色基本色

C: 中間色

るなど8語あったが、メキシコでは4語であった。このことから、メキシコの対象者に比べ日本の対象者間では連想するイメージの共有性が高い傾向にあることがわかった。各色のイメージを日本とメキシコで比較すると、「黄赤」「だいたい」「茶色」「緑」「青」「空色」についてはイメージが相似していた。「黄赤」「だいたい」「茶色」はいずれもオレンジやチョコレートといった食べ物を思い浮かべやすく、「緑」「青」「空色」は木や海、空などの自然をそのまま直接的に連想する傾向がみられた。しかし、「緑」についてはメキシコの旗にその色が使われているため「旗」というイメージを連想していた。「赤」「黄」「オリーブ」「黄緑」「浅緑」「青紫」「灰色」「白」「黒」については日本とメキシコではイメージが大きく異なっていた。「赤」「黄」については、日本の対象者は日常よく目にする「リンゴ」や「レモン」の（皮の）色に結びつけたが、メキシコの対象者からは「愛情」や「喜び」といった感情をあわす言葉が引き出された。「オリーブ」については、日本では「お茶」や「苔」をイメージしたのに対し、メキシコでは「軍隊」に関する語の回答がみられた。これは文化、社会背景の違いによるものと思われる。「灰色」については、日本の対象地域が鹿児島市であったため、「火山灰」という地域性の強いイメージ語が現れた。「白」については、メキシコの対象者が「純粹」といった抽象的なイメージを連想していたのに対し、日本の対象者では具体的な物に結びつけていた。「黒」ではどちらも抽象的なイメージが多かったが、日本では「闇」「葬式」といったネガティブなイメージ、メキシコでは「優雅」といったポジティブなイメージを回答していた。

2) イメージの傾向と色刺激

前項において色刺激から連想されたイメージ語は具体的傾向をもつものと抽象的傾向をもつものに分けられた。そこで、グループ別に具体的なイメージを連想した対象者の割合を表5に示す。21色の呈示色刺激全体に対して日本の対象

表5 具体的イメージを連想した対象者の割合

グループ	単位：%	
	日本	メキシコ
全体 (21色)	83.0	59.3
A (10色)	84.7	57.4
B (3色)	83.3	26.2
C (8色)	80.7	74.2

グループA: 有彩色基本色
B: 無彩色基本色
C: 中間色

表6 イメージの具体的割合と色刺激

グループ	色刺激	単位：%	
		日本	メキシコ
A	赤紫	92.3	55.6 **
	赤	78.6	42.9 *
	黄赤	78.6	55.6
	黄	78.6	53.8
	黄緑	92.9	46.2 **
	緑	71.4	84.6
	青緑	100	72.7 **
	青	92.9	66.7 *
	紫	84.6	50.0 *
	青紫	76.6	46.2
B	灰色	100	50.0 **
	白	78.6	14.3 **
	黒	71.4	14.3 **
C	ピンク	85.7	75.0
	だいたい	78.6	84.6
	茶	92.9	83.3
	薄茶	92.3	92.3
	クリーム	71.4	70.0
	オリーブ	78.6	53.8
	浅緑	69.2	70.0
空色	76.9	64.3	

*p<0.1 **p<0.05

グループA: 有彩色基本色
B: 無彩色基本色
C: 中間色

者の83%が具体的なイメージを思い浮かべたが、メキシコの対象者では59%であった。色刺激のグループ別に見ると、日本では色のグループに関わらず80%以上が具体的なイメージを持つことが明らかになった。メキシコでは無彩色で73%が抽象的、生活の中で目にする頻度の高い中間色のグループCは74%が具体的なイメージを連想するという特徴が認められた。各色刺激別の割合を表6に示す。「白」「黒」で最も日本とメキシコの差が現れ、危険率5%で有意な差が認められた。「灰色」はメキシコの対象者においても具体的なイメージの割合が50%であったが、日本の対象者の割合は100%であったため「白」「黒」と同じく危険率5%で有意な差が認められた。グループAの中では「赤紫」「黄緑」「青緑」が危険率5%、「赤」「青」「紫」が危険率10%で日本とメキシコの間において有意な差が認められた。グループCの中間色は8色すべてで有意な差が認められず、日本もメキシコも高い値を示した。このことからグループCの色は国に関わらず身近な具体物に結びつきやすいことが明らかになった。

(3) 色の嗜好

1) 嗜好色の日本とメキシコの比較

3つの用途（調査項目③用途を限定しない場合、④普段に着用する場合、⑤フォーマルな場で着用する場合）別に色の嗜好を数値化した結果を表7に示す。用途を限定しない場合に好まれる色、つまり、嗜好色について比較すると日本の対象者では「だいたい」「空色」「黄赤」「浅緑」「紫」の順に好まれていたが、2色が0点だったほかは最高点でも28点で、10色が10点以上、5色が5点以上と点数が分散した。それに対し、メキシコでは0点が4色と日本より多く、「空色」が41点で多くの人に好まれ、次いで「黒」「白」「赤」「青」「灰色」の5色が20点以上を得点し、これら6色に点数が集中していた。普段に着用したい色を比較すると、日本の対象者では「黒」「白」「空色」「青」「だいたい」が、メキシコの対象者では「空色」「黒」「青」「白」「灰色」が好まれていた。「空色」「黒」「白」「青」はいずれの対象者にも好まれたが、獲得点数はメキシコの方が高く、嗜好の集中が見られた。また、ファッションに興味を持つ年齢の女子学生を対象者としたにもかかわらず、メキシコの対象者は、日本では10点以上を獲得した「ピンク」や「だいたい」を選択していなかった。フォーマルな場で着たい色を比較すると、日本の対象者では「黒」「白」「灰」「茶色」「クリーム」が好まれ、メキシコの対象者では「黒」「灰色」「白」「空色」「青」が好まれた。いずれも「黒」が60点以上を獲得し、「フォーマルな場」＝「黒い服」という考え方が共通していることが明らかになった。用途を限定しない場合の色の好みについては点数のばらつきがみられた日本の対象者だったが、フォーマルな場で着たい服の色はメキシコの対象者と同じように「黒」「白」「灰色」に点数が集中した。どちらの対象者も普段着とは異なり、フォーマルな場という限定された状況では社会的慣習に影響を受けたと考えられる。

2) 衣服の用途と嗜好色との関係

数値化した色の嗜好について3つの用途間の相関係数を算出した結果を表8に示す。日本の対象者では、用途Ⅰ（嗜好色）と用途Ⅱ、用途Ⅰ（嗜好色）と用途Ⅲではどちらも相関が低く、とくに用

表7 用途別の嗜好色の得点

		単位：点(順位)					
グループ	色刺激	用途を限定しない場合に好まれる色		普段に着る服として好まれる色		フォーマルな場で着る服として好まれる色	
		日本	メキシコ	日本	メキシコ	日本	メキシコ
A	赤紫	9	4	6	3	3	10
A	赤	8	22 (4)	3	4	3	4
C	ピンク	11	6	10	2	0	0
A	黄赤	17 (3)	0	4	2	0	0
C	だいたい	28 (1)	4	16 (4)	0	0	0
C	茶色	2	0	0	5	16 (4)	3
C	薄茶	0	4	5	22	8	7
A	黄色	10	7	0	0	0	0
C	クリーム	8	5	9	7	15 (5)	9
C	オリーブ	9	2	14	4	4	9
A	黄緑	11	1	1	1	0	0
A	緑	4	5	6	0	0	0
C	浅緑	16 (4)	6	6	4	2	0
A	青緑	2	0	0	0	0	0
A	青	14	22 (4)	16 (4)	31 (3)	5	17 (5)
C	空色	26 (2)	41 (1)	25 (3)	35 (1)	10	21 (4)
A	紫	16 (4)	0	15	0	11	0
A	青紫	7	3	11	4	8	1
B	灰色	0	20	8	24 (5)	27 (3)	44 (2)
B	白	10	28 (3)	27 (2)	27 (4)	34 (2)	23 (3)
B	黒	2	30 (2)	28 (1)	35 (1)	64 (1)	62 (1)
(標準偏差)		7.6	12.0	8.7	12.8	15.5	16.2

グループA:有彩色基本色
 B:無彩色基本色
 C:中間色

用途Iと用途IIIの間ではマイナスの相関であった。嗜好色と衣服を身に付けるという観点から好きな色を選ぶ場合とでは全く異なっていた。用途IIと用途IIIでは危険率0.5%で有意な相関が見られた。それに対して、メキシコの対象者では3項目間すべての間で0.7以上の高い相関があった。これは、嗜好色、用途に関わらず着用したい服の色ともに「空色」「青」「灰色」「白」「黒」に好みが集まっていたためである。

表8 用途別の嗜好色の相関

組み合わせ	日本	メキシコ
I×II	0.3407	0.8456 **
I×III	-0.3387	0.7049 **
II×III	0.6283 **	0.8028 **

**p<0.005

用途I:用途を限定しない場合(嗜好色)
 II:普段に着用する場合
 III:フォーマルな場で着用する場合

4. 結語

今回の調査より次の点が示唆された。

- (1) 色名については、日本では基本的な色名、メキシコでは固有色名が多く用いられていた。また、1つの色に対して使われる色名はメキシコでは一致度が低かったが、日本では色名の一致度が高く、表現が確立されている色が多かった。
- (2) 日本ではJISに規定された色名のうち、「赤」「黄」「黄緑」「緑」「青」「白」「黒」は8割以上が規定される色名に一致していた。
- (3) 色から連想されるイメージは、日本では具体的な物に結びつける傾向がみられたが、メキシコでは対象者が同じイメージを連想することが少なく、表現も抽象的なものが多かった。
- (4) 色の嗜好については、好きな色と着用したい服の色とで日本では相関が低かったが、メキシコでは高かった。無彩色をフォーマルな場で着る服の色として考えている点は共通していた。

引用・参考文献

- 1) (社)全国服飾教育者連合会：「COLOR COORDINATE PLANNING」, (株) A・F・T企画, 東京, 2-8 (1998)
- 2) 坂上ちえ子, 文田哲雄：色名使用の実態, 鹿島短大紀要, 第44号, 41-57 (1993)
- 3) 呂清夫：系統色名の研究 (第1報), 日本色彩学会誌, Vol.20, 4-15 (1996)
- 4) 盛田真千子：色名の使われ方とその諸問題 (第1報), 日本色彩学会誌, Vol.20, 1-12 (1996)
- 5) 芳村玲子, 齋藤美穂, 柳瀬徹夫：色彩嗜好と使用色に関する日米比較, 日本色彩学会誌, Vol.12, 68-78 (1988)
- 6) 齋藤美穂：アジアにおける色彩嗜好の国際比較研究 (1), 日本色彩学会誌, Vol.16, 1-10 (1992)
- 7) 方文秦：中・日女子学生の服装デザイン嗜好に関する比較研究, 奈良女子大修士論文 (1992)
- 8) 押山八重子, 家本修：一般好嫌色と被服着用好嫌色との相違性に関する研究, 日本色彩学会誌, Vol.21, 143-149 (1997)